

2012(仏暦2555)年12月号 (第82号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行

浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充

〒385-0003

長野県佐久市下平尾461-1

電話 0267-67-2460



■住職法話

新しい年を迎えるにあたって

■仏事のイロハ

故人の遺志を受け聞法に励む

■本願寺の本

ほんがんじしんぼう
本願寺新報

■お知らせ、編集後記

Photo

最近、各地でイルミネーションが盛んです。LEDの開発が進み、少ない電力で出来るようになったからでしょうか。佐久市も、^{かしま}檜山工業は有名ですが、今年は佐久平駅前にも登場しました。極寒のなか幻想的な雰囲気が良いです。

住職 法話

新しい年を迎えるにあたって

今年もあとわずかです。新しい年を迎えるにあたって、

「当たりしした」と…。

いた、たくさん多いのは、今の仏教そのものが、信者から何か「気休め」の存在になつてしまつていてと感ずるからです。寺や保育園の維持のために、参拝者や保護者の願（欲望）に答へざるを得なくなつて、本来あるべき姿を欠いてしまつていてと思へなりません。

御恩報謝の生活を送る。



とあります。常に自分のあり方を見つめ直し、感謝の生活を送るようにと諭されていきます。

新たな年を迎えます。お寺やお仏壇の如來さまの前で、「良い年でありますように」といったことは誰もが願うと思います。しかし、それはさておいて、おかげさまで新年を迎えられた今に感謝をし、願い事などに頼らない新年を迎えて欲しいものです。余談ですが、願い事は、お寺ではなく神社へどうぞ…。

でも、特に身近な「欲」というものを戒めなさいといった内容で、おもしろおかしくお話しされていたのを思い出しました。その資料のメモに、私なりの感想が書き加えてありました。

か。
本願寺新報で、以前、「本来の宗教」に対して、「気休めの宗教」と表現した記事を見たことがあります。まさにこれらは「気休めの宗教」に思えてなりません。

私たちの「浄土真宗の教章」の中の「生活」というところには、親鸞聖人の教えにみちびかれて、阿弥陀如來のみ心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり、慚愧と勸喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく

それは、「人間の「欲」を戒めているお寺さんが、家内安全、受験合格、商売繁盛といった人間の欲望を公然と願っている仏教の現実を目の

再三、私は「本来の仏教」という視点でお話しをさせて

ねにわが身をふりかえり、慚愧と勸喜のうちに、現世祈禱などにたよることなく

ハロイの事 仏事のイロハ

故人の遺志を受け聞法に励む

お寺にお参りされていの方であれ「永代経」という言葉は、よく知っておられるでしょうが、最近では「永代経」って、どんなお経ですか」と、お経の一つだと思ってる方もいるようです。

永代経とは、「永代読経」の略で「末永く（永代に）お経が読まれる」という意味です。そこからまた「お寺が存続し、教えが繁盛し続けるように」という願いが込められた意味にもなります。つまり

①お寺が護持されること②そこで子や孫が代々にわたって教えを聞き慶ぶこと―この二つが「永代経」の心だと言っ

てよいでしょう。そうした願いと志を持って、ある程度まとまったお金や、仏具などをお寺に納めるのが「永代経懇志」であり、その報恩の行為を受けて、お寺が開く法要が「永代経法要」であるわけです。

したがって、「永代経を上げる」という場合の、永代経は「永代経懇志」のことですし、「永代経が勤まる」といえば「永代経法要」をさしています。

この法要は、「報恩講法要」に次いで盛大に勤めるお寺が多く、おおむね年一、二回、春や秋に行われます。

また懇志については、故人への追慕から納められる場合がほとんどで、表書きには「永代経志」などの文字の右肩に、故人の法名を記したりします

これは、「故人のために納める」というのではなく、故人の「永代に教えが伝わるように」との遺志を受けた施主が「故人になり代わって納めるからです。くれぐれも故人への追善供養」と誤解しないで下さい。

さらに、いったん納めてしまえば「責任が果たせた」と考えるのも困ります。ある方など「永代経を納めましたので、お参りに行かなくてもちゃんとお経を上げて下さるので安心です」と話していましたが、これでは永代経も台なします。教えを私に伝えて下



さったご先祖の遺徳を偲び、何より私自身が聞法に励んで、慶びを子孫に伝えていく―これでこそ永代経といえるのです。

ポイント

- 寺院護持と教え繁盛を願って「永代経懇志」を納めよう。
- 私が聞法してこそその「永代経」

「仏事のイロハ」末本弘然著 本願寺出版社刊より

「任職談」万行寺では、報恩講はお勤めしますが、永代経法要は行っていません。寺の状況などにより様々なので、こういった法要もあるということだけおわかりいただければと思います。

～本願寺の本～

ほんがんじしんぼう

本願寺新報

年間購読 4,080円(税、送料込)

一部 120円 本願寺出版社 発行

発刊以来100余年の歴史を持つ「本願寺新報」は門信徒の方々の新聞です。宗門の動き、社会問題、やさしい法話、童話のページなど新しい情報が紙面いっぱい。1日・10日・20日と月3回発行で、1面と最終面はカラー写真を豊富に使ったカラフルな紙面づくりを行っています。一家に一紙、ご購入をお勧めします。(HPの紹介文より)



「万行寺門信徒会」より

万行寺門信徒会会員におかれましては、本年度もご理解とご協力を賜りましたこと感謝申し上げます。

なお、納付期限を過ぎましても、本年度内（来年3月末）まで受け付けていますので、まだお納めいただけていない方は宜しくお願いいたします。

編集後記

寒い日が続いています。特にこの数日は、寒波が次から次へとやってきて、気温が下がりがつぱなしです。◆一ヶ月以上も早い寒さ到来で、私と坊守（妻）共々に体調を崩して風邪をひいてしまいました。そのため娘にもうつしてしまい、家中で風邪をひいてしまいました。た。重症にはならず、もう治りましたが、体調管理には気をつけなくてはと思います。◆今年も、一年間、有り難うございました。寺報の内容に減り張りが無くなってきたと反省しているところですが、来年もよろしくお願い致します。

